

2010年度

科目名	フィールドワーク I B			
担当教員	鈴木 利一			
配当	文 2		コード	80040
開期	集中後期	講時	集中0限	単位数 2
授業テーマ	韓国の世界文化遺産に日本文化の源流を訪ねる。			
目的と概要	「大陸文化伝来の道」をテーマに韓国各地を訪れ、日本と韓国とに共通する文化やその差異を探ります。日本文化の黎明期には、先進的な大陸文化の多くが朝鮮半島経由でもたらされました。そのため、両地域の古代遺跡や文化遺産を見比べた時、そこには大変多くの共通点があることに驚かされます。現地で実物を直接目にするにより、今一度自分たちの文化をふりかえてみたい。それが、このフィールドワークの目指すところです。			
成績評価法	講義への出席状況(40%)、課題の提出状況(40%)、課題に取り組む姿勢(20%)等を勘案し、総合的に判断します。			
テキスト	特に定めなし。			
参考書				
履修に当たっての注意・助言	必ず、フィールドワーク I Aと併せて履修して下さい。 講義は変則的かつ集中的に行われますので、当日は必ず出席してください。			
講義計画				
<p>実地調査の目的地は、新羅の古都慶州、提携校又松大学の所在する大田市、そしてソウルを踏査する予定です。フィールドワーク I Bでは、その実施段階と事後指導として以下の日程で講義を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第2次現地踏査(9月上旬) 韓国内の現地踏査を、約1週間の予定で実施します。 2. 事後指導(10月ー1月：集中型講義と個別指導) 現地踏査での記録やメモをもとに、フィールドにおける学びや理解を再確認します。 3. レポート作成(10月ー1月) 年間の活動成果をレポートにまとめます。このレポートの提出をもって、最終の評価対象として認めます。 <p>実地調査にあたっては、出来る限り古代人のたどった道筋そのままを、現代の交通機関を使ってソウルまで行き着くよう努力します。そのため、韓国内での移動は、現地の公共交通機関を利用するなどして、旅行社に頼らない旅作りを目指します。また、宿泊先も安全性と衛生面には十分に配慮しますが、現地の普通の人々が利用する、安価で簡素な旅館を利用する予定です。この講義を通して、自ら企画し自ら手配する、手作りの旅の自由さや楽しさも知ってもらえたいと考えています。また、大田市では、本学の提携校である又松大学の協力を得て、日本語・日本文学を専攻する学生との交流を行う予定です。日韓の学生同士による同世代交流を通じて、相互理解を深めたいと考えています。</p>				